

## 黙示録 2：1-7 「愛のない教会 — 愛が冷める時」

2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。 2:2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。 2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。 2:4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。 2:5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。 2:6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』』

### 導入

新婚はやほやというのは、うきうきするころです。いつも一緒にいたい、相手の喜ぶことをしたい、困ったことは何でも相談したいと思えます。

クリスチャン同士なら、いっしょに祈りたいとも思うでしょう。

恋愛感情はとてすてきなものです。

私たちが新婚だったころ、私は髪を長く伸ばしていました。それで、ウェンディに髪を洗ってドライヤーで乾かしてもらうのが楽しみでした。

けれども、時が経つにつれて他のことで忙しくなっていました。

子どもが生まれると手がかかりますから、気をつけていないとその影響で夫婦の関係が冷めてしまいます。

ふたりきりでロマンチックな食事を楽しむこともなくなりますし、以前のように身なりをかまわなくなることもよくあります。

このように冷めてしまった関係を修復するにはどうすればよいのでしょうか。

それには、心の中にある愛の炎を再び燃え上がらせる必要があります。

1. 毎日いっしょに充実した時間を過ごす。
2. ロマンチックな気分になれる場所に出かける。
3. どんなことも正直に話し合う。

充実した時間をいっしょに過ごすと、良い人間関係が育めます。夫婦の場合、新鮮な気持ちでお互いへの愛情を感じられます。結婚していない人も、親友と充実した時間を一緒に過ごすことで、友情を深めることができます。

どんな人間関係でも、思いが冷めることがあります。一旦そうなると、絆を取り戻すことは容易ではありません。しかし、一緒に過ごす時間を増やすことは関係修復の役に立ちます。

夫婦間の愛が冷めたり、友だちへの友情をそれほど感じなくなったりするのと同じように、神との関係においても冷めることはあり得ます。

今日は黙示録 2：1-7 を学び、神が語っておられることを見ていきたいと思えます。これは、歴史上に起こった出来事について神が語られたことですが、同時に、今 OIC で礼拝する私たちひとりひとりに神は語ってくださっています。

ではまず、エペソの町について学んでいきましょう。

### エペソの町

エペソは、アジア地方の主要都市でした。人口は約 35 万人で、日本の中規模都市ほどです。

現在、エペソを訪れると、使徒 19 章に登場する野外劇場が今も残っています。2 万 5000 人を収容できるこの劇場は、甲子園とほぼ同じ広さでした。

エペソは「自由の町」でした。つまり、ローマ帝国の支配下でありながら、一定の自治権を得ていました。ローマ帝国の駐留兵もおらず、古代オリンピックに匹敵する規模のスポーツイベントも開催されていました。

エペソは、主要な港に近く、小アジア地方の4つの主要街道が交差する理想的な位置にありました。

エペソは、女神ディアナの崇拝地として知られました。毎年春になると、エペソの住民の多くは、一カ月におよぶディアナを祀る祭りに参加しました。ディアナ崇拝には神殿娼婦が関わっていました。

このように偶像礼拝や不品行がはびこる場所に、神は介入して小さな教会を開拓されました。

## エペソの教会

この町に福音を伝えたのは、プリスキラとアクラでした。

使徒 18: 18-19

18:18 パウロは、なお長らく滞在してから、兄弟たちに別れを告げて、シリヤへ向けて出帆した。プリスキラとアクラも同行した。パウロは一つの誓願を立てていたのので、ケンクレヤで髪をそった。18:19 彼らがエペソに着くと、パウロはふたりをそこに残し、自分だけ会堂に入って、ユダヤ人たちと論じた。

ふたりは雄弁な説教家のアポロと合流し、ともにそこで教会を開拓しました。

偉大な使徒パウロは、三度目の伝道旅行でこのエペソの教会と関わりました。

彼は、ヨハネのバプテスマを信奉する人々と出会い、福音を伝えました。こうして彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けました。

この出会いがきっかけでエペソでのパウロの働きが始まりました。パウロはそこに3年間とどまりました。(使徒 20 : 31)

パウロは長老たちにも指導者の心得を教えました。

この教会はとても勢いがあり積極的だったので、アジア地方の他の地域にもインパクトを与えました。

(使徒 19 : 10)

このころにアジア地方の他の7つの教会が設立されたと思われます。

多くの人々が改宗したことで、異教の職人たちが経済的な脅威を感じたほどでした。(使徒 19 : 23-41)

この手紙が記されたころまでには、教会の創立から40年ほどが経っていました。

使徒パウロも、パウロの働きによって改宗した初代のクリスチャンもすでに亡くなっていました。

エペソの状況は変わり、新たな手紙を必要としていました。そして、それはパウロからの手紙ではなく、主イエス・キリストご自身からの手紙でした。

イエスはエペソの教会について、4つのことをおっしゃいました。

1. 称賛、2. 命令、3. 懸念、4. 助言

## 称賛 (2-3節)

1. イエスは彼らの働きを褒められた。(2節)

イエスは、「あなたの行いを知っている」とおっしゃいました。ここで使われたギリシャ語の単語は、イエスの知識を指し示します。つまり、人間のようどこからかの情報で得た知識ではなく、完全な知識を意味します。イエスがエペソの教会で起こっていることをすべてご存じであるように、OICで起こっているすべてのことをご存じです。

何も隠しだてすることはできません。

ここにある「労苦」というのは、汗水たらして疲れ果てるまでの働きを意味します。彼らは精勤な働き人でした。傍観者ではなかったのです。

OICでも主に一生懸命仕えている人たちがたくさんいます。

私はその人たちのことを感謝しています。主もその人たちのことを褒めてくださいます。

聖霊に望まれること、聖霊が力を与えてくださっていることをクリスチャンがする姿を見られるのはすばらしいものです。

聖霊は、人々の人生を変える祝福の働きのために私たちのようなおかしい人間を用いてくださいます。

主が望まれることに関わり、前進していこうと今日決心しませんか。

それはもちろん、簡単なことではありません。たいへんな働きです。しかし、みことばが語る通り、主にある働きは無駄にはなりません。

この個所でも明らかなように、イエスは主にある働きを褒めてくださいます。

けれども、イエスとともに働くことは重荷ではありません。

イエスはマタイ 11:30で、「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い」とおっしゃいました。

つまり、イエスに仕えるほうが、自分自身に仕えて自分のやりたいようにするより易しいという意味です。イエスに完全に明け渡し、みこころにゆだねれば、人生の旅路は進みやすくなります。

イエスはエペソの教会の人々の熱心な働きを褒められました。

## 2. 彼らの忍耐を褒められた。(2節)

イエスは、彼らの働きだけでなく忍耐も褒められました。

ここで忍耐とされている単語は、困難な状況に対して使われる単語です。

人に対して我慢強いということではなく、困難な状況でも彼らがイエスに忠実でありつづけたことを示します。

これはここにいる私たちにとっての課題です。どんな状況でもイエスに忠実でありつづけましょう。

## 3. 彼らの見分ける力を褒められた。(2-3節)

エペソの教会の人々は、彼らの交わりに加わろうとやってくる人たちを霊的に見分けるようにしていました。つまり、教会に来た人たちを試したわけです。

証をすぐに鵜呑みにはせず、その霊性を確認しました。

クリスチャンだと言う人を誰でも受け入れることはしませんでした。

みことばを読むとわかるように、使徒だと言って教会に来た人が実は偽物だったということがあったからです。(使徒 20:28-31)

それで、彼らが見分けるようにしていた行為をイエスは褒められました。

人を試す行為を褒められたということに違和感を感じるかもしれませんが、新約聖書は試すことの必要性について何度も教えています。

### ヨハネ第一 4:1-3

4:1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。4:2 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。4:3 イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。

### テサロニケ第一 5:21

しかし、すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。

教会に加わりたい、教会員になりたいという意思表示をする人にいくつかの質問をすることは間違いではありません。

むしろ、後から問題が起きないようにできます。

また、ある特定の賜物や召しがあると言う人のことを見定めるのも間違いではありません。

その人に偽りがなければ、調べられても嫌がらないでしょう。

偽りがあれば、調べられると困るので嫌がるでしょう。

何年も前のことですが、ある頭の良くて仕事もよくできる女性がロンドンの私の教会にやってきました。この女性は、欠かさずしっかり祈る人でした。6か月ほどして、彼女がある奉仕に関わりたいたったので、私は彼女の霊の賜物を確かめさせてほしいと言いました。すると、彼女はこれに激しく抵抗し、教会を離れていきました。

後に、彼女の生き方が大きく変わっていたことを知り、霊の賜物や安定して奉仕のできる人かを確認しようと考えたのは正しいことだったとわかりました。

エペソの教会はきよい生き方に対して高い基準を掲げていました。

教会における指導や矯正にも同じ原則があてはまります。

どんな理由であれ、交わりの中にいる人の過ちを指摘して矯正することは容易いことではありません。けれども、必要なことであり、本物の信徒であれば、そのときではなくても後になって御霊の実を結び、指導を受けたことを神に感謝するでしょう。

## イエスの懸念 (4-5 節)

### 1. 彼らは初めの愛を離れてしまった。

イエスからあらゆる面で褒められたエペソの教会にも、欠点が指摘されました。これは、なかなか人が気づかない部分かもしれません。

私たちが子どもたちにも同じことが言えます。私たち夫婦には愛する子どもが4人います。人の目にはとてもできた子たちに見えても、完全ではありませんから、私たちはその欠点に気づいてその部分を直せるよう助けようとしています。

同じように、私たちクリスチャンは神の子ですから、神は私たちの欠点をご覧になります。

このエペソの教会の欠点は、初めの愛を離れたことでした。

エペソの教会にかつてはあった愛が、今はもうありません。彼らはその愛を失ってしまったのです。

どうしてそうなってしまったのか、聖書には記されていませんが、その答えを他の聖書箇所から導き出すなら、おそらく徐々にそうなってしまったということでしょう。

初めの愛を離れることについて書かれた旧約聖書の箇所を読んでみましょう。

### エレミヤ 2:2-13

2:2 「さあ、行って、【主】はこう仰せられると言って、エルサレムの人々の耳に呼ばわれ。わたしは、あなたの若かったころの誠実、婚約時代の愛、荒野の種も蒔かれていない地でのわたしへの従順を覚えていて。 2:3 イスラエルは【主】の聖なるもの、その収穫の初穂であった。これを食らう者はだれでも罪に定められ、わざわいをこうむったものだ。——【主】の御告げ——」 2:4 ヤコブの家と、イスラエルの家のすべてのやからよ。【主】のことばを聞け。 2:5 【主】はこう仰せられる。「あなたがたの先祖は、わたしにどんな不正を見つけて、わたしから遠く離れ、むなしいものに従って行って、むなしいものとなったのか。 2:6 彼らは尋ねもしなかった。『【主】はどこにおられるのか。私たちがエジプトの国から上らせた方、私たちに、荒野の荒れた穴だらけの地、砂漠の死の陰の地、人も通らず、だれも住まない地を行かせた方は』と。 2:7 しかし、わたしはあなたがたを、実り豊かな地に連れて入り、その良い実を食べさせた。ところが、あなたがたは、入って来て、わたしの国を汚し、わたしのゆずりの地を忌みきらうべきものにした。 2:8 祭司たちは、『【主】はどこにおられるのか』と言わず、律法を取り扱う者たちも、わたしを知らず、牧者たちもわたしにそむき、預言者たちはバアルによって預言して、無益なものに従って行った。 2:9 そのため、わたしはなお、あなたがたと争う。——【主】の御告げ——また、あなたがたの子孫と争う。 2:10 キティムの島々に渡ってよく見よ。ケダルに人を遣わして調べてみよ。このようなことがあったかどうか、よく見よ。 2:11 かつて、神々を神々でないものに、取り替えた国民があっただろうか。ところが、わたしの民は、その栄光を無益なものに取り替えた。 2:12 天よ。このことに色を失え。おぞ気立て。干上がれ。——【主】の御告げ—— 2:13 わたしの民は二つの悪を行った。湧き水の泉であるわたしを捨てて、多くの水ためを、水をためることのできない、こわれた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。

## エゼキエル 16: 8-15

16:8 わたしがあなたのそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたの年ごろは恋をする時期になっていた。わたしは衣のすそをあなたの上に広げ、あなたの裸をおおい、わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ。——神である主の御告げ——そして、あなたはわたしのものとなった。16:9 それでわたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。16:10 わたしはまた、あや織りの着物をあなたに着せ、じゅごんの皮のはきものをはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹の着物を着せた。16:11 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、16:12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪をつけ、頭には輝かしい冠をかぶせた。16:13 こうして、あなたは金や銀で飾られ、あなたは亜麻布や絹やあや織り物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、栄えて、女王の位についた。16:14 その美しさのために、あなたの名は諸国の民の間に広まった。それは、わたしがあなたにまとわせたわたしの飾り物が完全であったからだ。——神である主の御告げ——16:15 ところが、あなたは、自分の美しさに抛り頼み、自分の名声を利用して姦淫を行い、通りかかる人があれば、だれにでも身を任せて姦淫をした。

神とイエス・キリストに対する初めの愛を失うと、お互いへの愛や失われたたましいへの愛も失うようになります。

「愛のないささげものをすることはできても、ささげずに愛することはできない」と言うことばがあります。

神とイエス・キリストを心から愛していなくても、クリスチャンの働きにお金や時間をささげることができます。けれども、神とイエスを深く愛するクリスチャンでありながら、クリスチャンの働きに時間もお金もささげないということはあり得ません。

神は、私たちの真心を望まれます。真心があれば、そこからあらゆる行いは生まれます。今日の戦いは、真心と愛を勝ち取る戦いです。私たちの心がイエスとみこころを求めていないなら、他のものを求めていることとなります。その「他のもの」がイエスの愛から私たちの心を遠ざけるものです。

悪魔は、イエスを愛する私たちの心を徐々にイエスから遠ざけようとしています。では、イエスに対する愛が冷めてしまったらどうすればよいでしょう。

### 命令 (5 節)

- a) 思い出す。— 偉大な癒し主であるイエスは、失われた愛を癒す処方箋をお持ちです。この部分のギリシャ語を直訳すると「思い出しつづける」となります。  
自分が初めてクリスチャンになったときのことを覚えていますか。イエスに対してどのような愛を感じていましたか。過去にどんな奉仕に関わっていたか覚えていますか。  
イエスを心から愛していた時のことを思い出せますか。
- b) 悔い改める。— これは、自分の置かれた状況について考えを変えるという意味です。  
悔い改めとは、自分の過失を認め、それを申し訳なく思うことだと言われます。悔い改めることの一つ難しい部分は、自分の過ちに対する責任を受け入れることです。  
誰でも、他の誰かのせいにしたいからです。  
自分の責任を受け入れると、神のみこころに沿った悲しみを感ずります。  
すると、「私は聖書を読んだり祈ったりするイエスとのデボーションの時間を毎日守っていません」とか「聖霊に何かするように示されたのに、それに聞き従っていませんでした」と神に告白しなければならないこともあります。  
悔い改めとは、自分の置かれた状況について考えを変えることです。
- c) 初めの行いをする。— クリスチャンとして歩み始めたころ、どんな働きをしていましたか。そこに立ち戻る必要があります。神は、もういちどチャンスを与えてくださるお方です。

ここには、エペソの教会に対する警告も記されています。もし彼らが悔い改めなければ、その燭台を取り除くというものです。これは非常に重大な内容です。

悔い改めるほうが、私たちの証が取り除かれるより、よほど良い選択肢です。  
初めの愛や目的をなくしてしまった教会や宣教団体を、神は取り除かれます。十分に悔い改めの機会を与えてくださいますが、それでも悔い改めなければ、ご自身のみことばを成就なさいます。

ここ OIC ではそのようなことが起こらないようにしましょう。  
私たちは初めの愛と目的意識を失ってはいけません。

### 助言 (7 節)

この手紙はすばらしい約束で締めくくられています。これは、勝利を得る者に対する約束です。  
この 7 節で、ふたつのことが描かれています。

ひとつめは「いのちの木」です。

これは、創世記 2-3 章にあるエデンの園の話に登場します。  
アダムは罪を犯した後、この木から食べることを神に禁じられました。(創世記 3 : 22)  
この木の実を食べると、アダムも神のように永遠に生きるようになります。

ユダヤの考えでは、これはいのちを象徴する木でした。  
箴言はそのことを明確に教えます。

箴言 3:18 知恵は、これを堅く握る者にはいのちの木である。これをつかんでいる者は幸いである。

箴言 11:30 正しい者の結ぶ実はいのちの木である。知恵のある者は人の心をとらえる。

箴言 13:12 期待が長びくと心は病む。望みがかなうことは、いのちの木である。

アダムはいのちの木から食べるのを禁じられ、園から追放されてしまいましたが、もし私たちが勝利を得るなら、いのちの木から食べられると、神は約束してくださいます。私たちはイエスから永遠のいのちを受け取ります。このお方こそ、偉大なる勝利者です。

ふたつめは、「パラダイス」です。

もともとパラダイスという単語は、ペルシャ語で快樂の園を意味しました。それは、驚くほど美しい場所を指していました。

聖書が最初にギリシャ語に訳されたとき、エデンの園を指してパラダイスという単語が使われました。また、旧約聖書で美しい園を指して使われた箇所もあります。(イザヤ 1 : 30、エレミヤ 29 : 5、伝道者の書 2 : 5)

ルカ 23 : 43 でイエスは悔い改めた犯罪人に向かって、「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」とおっしゃいました。

パラダイスは確かにすばらしい場所です。言葉で言い表せないほど美しくてすばらしい場所です。イエスだけがパラダイスの門を開き、私たちを入れることがおできになります。ですから、私たちはこのお方を信じる必要があります。このお方だけを救いの頼みとしなければならないのです。